鼇頭提要

神道百首

014262-000-4

特16-673

神道百首（鼇頭提要）

友枝　速水／著

M24

ABB-0597

2F-62
特16
673

鼇頭提要

神道百首

神道百首緒言

高橋増子霊異の事たるや世人は之を知らず之を信せずと雖ども已に五ケ年の月日に渉り日々出づる所の神徳霊験随聴随筆積んで拾数巻を成せり未だ誰ありて閲読せんと欲するは者なきは遺憾なれ能はず然るに世人も之を信せざるのみならず狐狸と称し天狗と呼び自己自流の臆測を縦(ホシイマヽ)にして罵詈讒謗を以て事とする者ありて反て其論拠を問ふも茫洋答ふること能はず只言ふ神明は人に懸ること有るべし狐狸なれはなりとて何んぞ況んや今は是所謂十九世紀の文明時代なり世論の許さゞる所なるに於てをや世人の論拠とせる所是れ其神明に非らずと云ふも狐狸なりとするも共に証佐あるにあらず只臆測の妄断に過ぎず況んや十九世紀云々の如きは人が以て天を制せるの空論なるが免れざるに於ておや何んとなれば則ち天に世紀なし之を幾世紀と云ふは只人の定むる所天已に世紀なし又世論の許すと許さゞるとに依りて天意が屈ることなし然るに世人は第一世紀の耶蘇は之が神子を信んずど今日の高橋増子をば是狐狸なりと謂ふ耶蘇の所説増子の霊異共に幽事を通ずる者にありて一は之が實をとし一

も之を僞とし妄斷するも亦甚しと云ふべし雖然不學無識の身を以て天地顯幽の靈德妙用を說示するを猶掌中を視るが如き者は抑何ぞや若其碩學の士にして如此くなれば尊信景慕門前市を成すに至るべきも不學の人如此なれば之を罵詈誹謗し碩學の所說も口より出で不學の靈異も口より出づ一の口なり之を信じ一の口は之を疑ふ我之を妄斷と云ふ敢て誣言にあらず世人よく〳〵之を神明として不可ならば增子の口をもて可なり只其所說の眞理を研窮するに在るのミ雖然世人が之を信ぜざる者も必竟靈異の事實を知らざるに依る者なれば今其所說の神德教義に關する者を取り五十音別百首の歌詠となし之を世人に示さんと欲す世人よ請ふ此歌詠に依りて增子所說の一班を了知するを得ば果して信ずべきの信は可なざるか思ひ半ばに過ることあるべし尚其蘊奥を研究せんと欲せば來りて其所說を聽く所あれと云爾

明治廿四年五月　日

大洲友枝速水敬述

神德五十音歌

音	提要	歌
ア	大虛眞靈 一體三位	天地の大御祖とは誰れならん御靈は一御名は三柱
イ	陰陽二靈 群品之祖	妹と夫の道を始めて國造り伊邪那岐神伊邪那美神
ウ	日月星地 總有主靈	浮れ沈み漂ふ國の國靈は天之常立國之常立
エ	無量衆星 各異造化	得も知らぬ御虛空に満つは星の國產靈の奇び其星の數
オ	無數神祇 靈德無疆	多きをも多れ神々其功書も言葉も述べ難きかな
カ	幽冥主宰 即大地靈	幽世を主宰く君も即てまさ万の物の母神ぞ是れ
キ	雲霧霞靄 亦惟神德	霧霞野にも山にも棚霧れは是ぞ狹霧の神の御心
ク	醫藥禁厭 出於神傳	醫業禁厭の道は大名持少彥名神の御定め
ケ	罪罰解除 神恩實深	穢をも罪をも祓ふ祓戸神の惠みの尊かりける
コ	堅城鉄壁 妖魅退縮	此所とりは來勿と塞ぎて妖物を夜晝防ぐ塞の神々

サ	開拓不毛 道路八達	狭田彦神の功も野や山を開きて人の住所とぞする
シ	山嶽巍立 寶爲水源	重々に重なる山や主宰して水上知らす山津見神
ス	月光布露 職寒固物	須佐之男神は月魂其光露と降り布き物の根となる
セ	長壽攫鑠 偏頼神護	瀬を淵と變る世なれど石長姫神の功ぞ命長人
ソ	順雨潤地 驟雨時益	滌き降る雨風知らす龗神天之水分國之水分
タ	飲食道立 處世心定	種つ物百々の木草も豊受神の御魂の幸ひありけり
チ	衣節寒暖 錦繍飾身	千々の色綾成し着物豊受神の御恵み織姫の幸
ツ	屋堅家静 民人安息	築き建てる屋船の道も草野姫久々能智神豊受神
テ	經營莊嚴 身胖心樂	手に斧を取りて家造り始めなす手置帆負彦狭智神
ト	百穀年登 鼓腹民安	年々に作る御年は御名に負ふ御年若年大歳神
ナ	有無相通 民業繁興	無き物と有る物換えて商成せば言代主神の御守
ニ	飲食成味 寶竈神德	爨き炊きの道を始めて朝夕に家々守る竈大神
ヌ	雷電威震 万物融解	烏羽玉の暗夜も照らし國土も鳴轟かす雷神
ネ	百煉堅刃 金鐵成器	煉り堅め刃打成し其神は石凝姥と天之目一
ノ	人魂固神 功德隨心	後の世の人も神魂人々の心の任の神とあがなれ
ハ	芙蓉美觀 温釀酒成	花ぞ咲く咲く木の花は咲耶姫神の御心是れ御室神
ヒ	光明照暗 生々無窮	日の神は天地の君撞賢木伊豆の御魂の清き御光
フ	温蒸冷來 万物縮張	吹く風の御魂の神と級津彦級津姫神是れ息の本
ヘ	船艦安全 海上如坐	邊に奥に浮へる船の船魂は須佐之男神御子の姫神
ホ	温熱照明 火德普物	火産靈神の功ら天地の物等悉皆温熱持つ
マ	金氣爲幹 成金利國	眞鉄あれ千萬物の根とはなれ黄金白銀知る金之神
ミ	水普万物 滋潤養育	水無くば如何にかせまし天地も万の物も火之神の任

題	音	歌
土沔物母賓成形基	ム	産霊成に本は埴安土の神土は彼れまる物形なれ
禍害有因自爲警戒	メ	恵みをは人知らねども妖神の禍事は是彼導きの爲
樹林森々材用足矣	モ	諸々の木種を植えて國々を青山成にし五十猛神
聰明叡智人生爲尊	ヤ	八意の心の悟導きて言霊幸ふ八意の神
祭儀禮重神人合一	イ	祈りつゝ神の幸ひを願へとて其道教ゆ太玉神
玉瑛之美人身加貴	ユ	瓊々然と瓊響玉の緒作り成に神は御名負櫛明玉
門關開閉實邦家守	エ	撰をなして妖物防く手力男是彼る御門の御守の神
吉凶交錯是生々機	ヨ	世の中の吉事凶事行きて通ふ禍津日神大直毘神
海産無量遠近相通	ワ	海津見を青海原を知る神は此所住の吉と國通ふ神
源泉混々日夜蒙澤	井	井之水は誰れの御幸ひ水波能賣鳴雷神まそなりける
生住惟護顯幽爲親	ウ	産土神の恵みを人知らぬ是れ住む郷の生みの親神
酒落和人寛優睿家	ヱ	惠良〱に咲ひ榮えて家内を丸く固むは宇受賣大神
性分是非神明常識	ヲ	各自〱己の道を守れとて常に附き添ふ人魂神
神聖垂統一系至尊	アラ	現人と世に現はれて八島國知らす大君是れぞ日の御子
往来出入必有所識	アリ	行歩きつゝ遠近通ふ道を守る阿須波と比岐の二柱神
有物精霊各全賦命	アル	有ほろ〱人知らねども千万の物等悉皆魂はあるなり
撥乱反正國家之鎮	アレ	荒れ廻る荒ぶる神を鎮むるは武甕槌と經津主神
冥府報罰各分輕重	アロ	有的とは人皆思はん罪の報其罪知らい夜母津神々

教義五十音歌

題	音	歌
四維五常大道存斯	ア	天地の道は此道君臣親子兄弟妹と夫の道
陰陽両立惟神之則	イ	妹と夫の道無き者も無かりけり親の天地即て此道
天地物源大虚特尊	ウ	生れ出る本も天地其本は天津御虚空の大御祖神

音	題	歌
ム	土万物母賓成形基	産霊成れは本の埴安土の神土はれはまろ物形なれ
メ	禍害有因自為警戒	恵みをは人知らねども妖神の禍事は是れ導きの為
モ	樹林森々材用足矣	諸々の木種を植えて國々を青山成しは五十猛神
ヤ	聰明叡智人生為尊	八意の心乃悟導して言霊幸ふ八意の神
イ	祭儀禮重神人合一	祈りつゝ神の幸ひを願へとて其道敎ゆ大玉神
ユ	玉瑛之美入身加貴	瓊々然と瓊響玉の緒作り成しは神は御名負櫛明玉
エ	門闕開閉寶邦家守	撰をなして妖物防く手力男是れぞ御門の御守の神
ヨ	吉凶交錯是生々機	世の中の吉事凶事行して通ふ禍津日神大直毘神
ワ	海産無量遠近相通	海津見を青海原を知る神は此所住れ吉と國通ふ神
井	源泉混々日夜蒙澤	井之水は誰れの御幸ひ水波能賣鳴雷神にそなりける
ウ	生住惟護顯幽為親	産土神の恵みを人知らぞ是れ住む郷の生みの親神
ヱ	洒落和人寛優齊家	惠良々々に咲ひ榮えて家内を丸く圍むは宇受賣大神
ヲ	性分是非神明常護	各自々々己の道を守れとて常に附き添ふ人魂神
アラ	神聖垂統一系至尊	現人と世に現はれて八島國知らす大君是れぞ日の御子
アリ	往來出入必有所護	行歩きつゝ遠近通ふ道を守る阿須波々比岐の二柱神
アル	有物精靈各全賦命	有はろ々々人知らねども千万の物等悉皆魂はあるなり
アレ	撥乱反正國家之鎭	荒れ廻を荒ふる神を鎭むるは武甕槌と經津主神
アロ	冥府報罰各分輕重	有的とは人皆思はん罪の報其罪知らは夜母津神ぞ

敎義五十音歌

音	題	歌
ア	四維五常大道存斯	天地の道は此道君臣親子兄弟妹と夫の道
イ	陰陽両立惟神之則	妹と夫の道無き者も無かりけり親の天地即て此道
ウ	天地物源大靈特尊	生れ出る本も天地其本は天津御虚空の大御祖神

エ　人生有道　棄天明命

得知らずや道な棄てそね此道の中に生れし人の身なれば

オ　神乎祖乎　生死難離

親は神々も親なり親の道を守るぞ人の道にはありける

カ　上下之分　邦家之基

上は上下は下なり上下の道を正せば國守る道

キ　君恩貴尊　民人繫命

君の恵み朝な夕なに忘るまじ民の安きは其御蔭なり

ク　愛國之義　天下所重

國の爲心を盡せ是れぞ此國に住む道世に立つの道

ケ　日々勤勉　千歳福祉

今日の日の務を盡せあふの日の一日の安き千代安き道

コ　一孝所立　万世傳道

子としては親を敬へ此道は我子にも亦傳ふべき道

サ　人生無常　因無恒心

定めなき世とな煩惱ちそ我心定まる身には定めある道

シ　生死常道　只當信神

死ぬも道死なぬも道ぞ心得て靈魂の行方を定めこそせよ

ス　人不永存　名傳万世

棄てゝ行く顯身なれど功あれば名は残るなり名を残せ人

セ　仁惟安宅　嫉妬豈可

狭き心人な持ちそね世は廣し廣き誠ぞ樂みの道

ソ　智愚強弱　誰見無用

其々に人の成す業變れども皆世の爲を盡せ此道

タ　尊卑齊人　天賦自由

尊きも卑きも同神の末心の隔て無きぞ道なる

チ　格物致知　識天造妙

千万の物の理究め得て御祖の神の御奇ひを識れ

ツ　善惡異報　天道公平

罪なれば凶事起り誠なれば吉事集ふ是れ神の道

テ　仰觀天明　俯察本心

照り渡る日の大神の姿視よ人の心は如此ぞあるべき

ト　政治隨時　是亦天意

時々の國の御法を克く守れ是れ時々の神の御心

ナ　理塞大虛　道藏至微

何事も心細かに盡し視よ奇の道は其内に在り

ニ　四海兄弟　博愛覆天

憎むまじ悪き心の人も亦神の御末ぞ愛みせよ

ヌ　惡心所向　顯幽永闇

烏羽玉の黒き心の人なれば顯世も闇幽世も闇

ネ　敬愛接人　自他和樂

懇懃に人に向はゞ人も亦懇懃になる我に向はめ

ノ　生則濟世　死則爲神

後の世の人の爲にぞ何事も心を尽せ是れ後の神

有始有終 功德可期	日々新心 養精入神	學要達理 豈空讀書	光陰徒過 流水何異	貪吝傷心 清廉實樂	道義所存 貧賤亦貴	非理求益 反害其身	繼述祖業 子孫本務	恩愛情深 苗裔生々	傷心天禁 安々立命	疾病自省 罪惡是報
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ
始めあり終りあるなれど人の道始めし心突き立てゝまし	日々に昨日の心改めて新なる身と研きこそせと	書讀ば書の心を悟れ人只徒爾に字をな數へそ	經て視れば泡と消え行く月日かな功勞無くは世に流れ川	欲を求め惜と惜みて日々に心傷めは世の人はせそ	誠こそ世の寶なれ誠あれば貧き身にそ光添ふなり	道も無きを得ましと思ふ世の寶くならすて身の敵となる	昔より在り來し事は能く思へ皆親々の功勞の跡	妻子視そは愛し愛ふれ人心如此なりてある世を榮ゆれ	物思ひ心な傷めそ何事を神に任せて誠一筋	病あらは己が心に省よ病ぞ罪の報なりけり

虛僞惡源 瞋怒豈是	自彊不息 微力極海	榮辱有道 撰擇勿失	世界天物 共和實道	事神明孚 祭親報本	仰天俯地 觀察識神	至誠所至 神明感動	和樂之門 福壽無疆	忠孝道尊 生死何疑	人好顯名 未問幽理	人任私心 反誹惟神
ト	ユ	エ	ヨ	ワ	ヰ	ウ	ヱ	ヲ	アラ	アリ
僞と怒を罪の本と知れ只何事も心真直に	行く水の意を無くば谷間漏る流も末は大海となる	撰擇べ人世の中事は千々八千々功あるもあり功なきもあり	世の中は寄合の物獨立て安く住むべき道ならなくに	忘るなよ神の御祭親祭是れ顯身の人の道なり	居ても寢ても起きても思へ天地の神の惠の中にある身と	敬へば御惠を與ふ神の道敬はぬ身に御陰なきなり	咲み睦び心樂を世に住まば命も長く家を榮えん	雄ゝしきも大和魂君の爲親の爲には身を何かせん	顯はる名を好めども幽世を心樂む人の少き	難有き神の惠みを知らずして己が心に迷ふ世の人

神佛異教 生々惟神	大道墜地 誓期挽回	人或信幽 何不究極

アル　有るは神無きは佛の教言世はよしあしを惟神道

アレ　有れ果てゝ履む人もなき大道の為身を粉にしても盡せ是れ神

アロ　有的とは心に思ふ幽世を尋ねんとする人の少き

神道百首終

明治廿四年五月十日印刷
明治廿四年六月五日出版

福岡縣豊前國上毛郡八屋町大字大村千九百廿四番地
著者兼發行者　友枝速水

福岡縣豊前國上毛郡八屋町大字八屋千八百十五番地
印刷者　郡司掛保忠

福岡縣豊前國上毛郡宇島町大字宇島百二十九番地
發賣所　辛嶋萬家

正價金貳錢五厘
外ニ郵送税

神佛異教 生々惟神	大道墜地 誓期挽回	人或信幽 何不究極
アル	アレ	アロ
有らは神無きは佛の教言世はよしあしも惟神道	有れ果てゝ履む人もなき大道の身を粉にしても盡せ是れ神	有的とは心に思ふ幽世を尋ねんとする人の少き

神道百首終

明治廿四年五月十日印刷

明治廿四年六月五日出版

福岡縣豊前國上毛郡八屋町大字大村千九百廿四番地

著者兼發行者　友枝速水

福岡縣豊前國上毛郡八屋町大字八屋千八百十五番地

印刷者　郡司掛保忠

福岡縣豊前國上毛郡宇島町大字宇島百二十九番地

發賣所　辛嶋並家

正價金貳錢五厘
外ニ郵送稅

[illegible]